

# 自然事象へ興味持つ子ら育て20年

## 筑波大主催「科学の芽」賞

①

645件。この中から最高件が選ばれた。峰の「科学の芽」賞には19 研究内容の素晴らしいものに

加え、子どもたちの発表する姿やその熱意に心を打たれ、翌年以降も継続が決定。その後、応募数は3千件を越えた年もあったが、コロナ禍の影響を受けて、やや減少。現在は回復傾向にある。現在のは回復傾向にある。その点を踏まえ、「科学研究結果に至るまでのスローリーを面白く表現できれば、素晴らしい作品がさらに増えると思う」（「小学生部門」最終審査委員の一人）といった声もある。本賞を告知するチラシは、学校関係者だけでなく図書館や博物館などの公共機関にも配布。それを見ては「まずはやってみよう」という子どもへの声掛けが大事になる」と話している。

## 自分で考え、行動する機会に

### 「まずはやってみよう」声掛け大事

筑波大学が毎年実施している朝永振一郎記念「科学の芽」賞（科学コンクール）が本年度で第20回の節目を迎える。対象は小・中・高生。自然事象や科学への興味・関心を高めることなどがねらいだ。子どもたちは身近にある不思議を見だし、観察・実験を行い、自らの考えをレポート（A4判、片面10枚以内）にまとめる。夏休みの自由研究として取り組み、その評価をもらえる機会にもできる。本年度の募集は8月18日から始まる（締め切りは9月13日）。本賞に関して上・下で紹介する。

日本で2人目のノーベル物理学賞の受賞者である朝永振一郎。量子電磁力学の発展に寄与し、東京教育大（筑波大学の前身）で学長を務めたことなどでも知られている。

「科学の芽」賞は、「小」という。中学・高校と比べ「小学生部門」「中学生部門」と、「科学の芽」賞のよ集まる。例年だと、その中から10件程度が「科学の芽」賞に選ばれる。「夏休みの宿題としてやってみようか」「コンクールがあるから応募してみようかな」「...こうした思いを持つ子どもたちの背中を押すきっかけにもなっている。近年は情報技術の向上に伴い、ネット上で紹介され

「科学の芽」賞が誕生した背景などに関して、附属学校教育局長の梶山教授に話してもらった

# 観察・実験レポート 8月18日から募集

日本で2人目のノーベル物理学賞の受賞者である朝永振一郎。量子電磁力学の発展に寄与し、東京教育大（筑波大学の前身）で学長を務めたことなどでも知られている。



これまでに「科学の芽」賞（小学生部門）を受賞した作品の一例



「科学の芽」賞が誕生した背景などに関して、附属学校教育局長の梶山教授に話してもらった

「科学の芽」賞は、「小」という。中学・高校と比べ「小学生部門」「中学生部門」と、「科学の芽」賞のよ集まる。例年だと、その中から10件程度が「科学の芽」賞に選ばれる。「夏休みの宿題としてやってみようか」「コンクールがあるから応募してみようかな」「...こうした思いを持つ子どもたちの背中を押すきっかけにもなっている。近年は情報技術の向上に伴い、ネット上で紹介され

筑波大学には11の附属学校がある。これらの学校は、先進的・実験的な教育実践を公開・提案する全国各地のモデル校としての役割を担っている。それに加え、



「科学の芽」賞・実行委員会事務局（筑波大学・学校支援課内） ☎03・3942・6806

日本教育新聞 7面にて掲載  
令和7年 6月23日 発行

本記事は、日本教育新聞社から掲載許可を得ています。記事の著作権は、日本教育新聞社に帰属します。記事の無断での転載はご遠慮ください。